

トピックス **プラス**

8/25

お米からパンができたよ!

米粉パンづくり教室が8月25日、中田児童館で行われ、登録児童ら約35人が参加しました。講師は上沼高の高橋修教諭。高校生ボランティアと一緒に、子どもたちへ生地づくりからパンの焼き上がりまで指導しました。パンに使用した米粉は市内産米を製粉したもので、JAみやぎ登米が無料で提供。子どもたちは、作って食べる楽しさを学びました。



▲米粉でパンづくりに挑戦する中田児童館の児童

8/30

災害時に備え企業・団体と協定

市内13の企業・団体との災害応援協定調印式が8月30日、市役所迫庁舎で行われました。協定はボランティアセンター開設、廃棄物処理、建築物応急対策、通信・情報収集応援、救援物資の一時保管施設提供の5分野。市と社会福祉協議会、産廃処理業者、大工組合、アマチュア無線クラブ、農協が役割に応じてそれぞれ協力することになります。



▲市内13企業・団体と協定を締結し握手をしました

9/9

力を合わせてゴールを目指す

第18回長沼レガッタ・登米市民ボート大会が9月9日、長沼ボート場で行われました。ナックルフォアには男子、女子、男女混合の合計38クルー、カヌーには小学生男子、同女子、中学生男子、同女子の合計36クルーが出場。選手は力を合わせてゴールを目指し、熱戦を繰り広げました。なお、結果は11ページに掲載しています。



▲地元クルーが熱戦を繰り広げた長沼レガッタ

9/15

安全・安心でおいしい食材がズラリ

登米市の食材まつりが9月15日、ホテルニューグランヴィアで行われました。民俗研究家の結城登美雄さんが「地産地消、消費者に求めるもの」と題して基調講演。その後、「ナスと伊達の純粋赤豚のはさみ揚げ」「はさま牛のステーキ」「筒菜ジュース」など、市内産の食材を使った昼食交流があり、来場者は自慢の『登米の食材』に満足していました。



▲市内産の食材を使ったメニューに満足する来場者

**登米で「とよま秋祭り」
伝統の祭りが人々を魅了**

「とよま秋まつり（同協賛会主催）」が9月15、16日の2日間、登米市街地で開催されました。16日の本祭に先立ち、15日の宵祭に「曇目の儀・大的式」弓の儀式を開催。新能では、「能・雷電」、「狂言・末廣かり」なども披露されました。また、各町内会が精魂込めて作り上げた山車の審査会も行われ、風流大賞に九日町、風流賞に鉄山、荒町、三日町の町内会が選ばれました。本祭では、よさこいや囃子踊りパレード、神楽大会などのほか、12台の山車が誇らしげに町内を練り歩き、観光客の目をくぎ付けにしました。



▲風流大賞、風流賞の山車をはじめ12台が市街地を練り歩きました



▲災害時に役立つ知識を取り入れた新競技「いそげ・救急隊!!」

**南方で環境コーディネーター派遣事業
身近な環境問題を学習**

南方協働のまちづくり事業「環境コーディネーター派遣事業」が9月12日、南方武道伝承館で南方中1年生91人を対象に行われました。町公衆衛生組合連合会の会員による「市の資源ごみ分別10種目」についての指導と、ATC53仙台の講師によるワークショップ「環境にやさしい買い物ごっこ」を実施。生徒らは12班のグループに分かれて、環境問題の意識を高めました。また、生活に関する身近なことを学んだことで、自分でできることを日々の生活に置き換えて実践するきっかけづくりの場にもなったようです。



▲南方中1年生91人が12班に分かれて互いに意識を高めた環境学習